

# 夢

## に挑戦、社会に貢献する山大病院 ～高度医療の維持と経営の持続可能性に向けて～



ホスピタルアートが彩を添える外来エントランス



分かりやすい動線と待合スペースを整備した外来

本院は、山口県内で唯一の特定機能病院、また大学病院としての役割を果たすべく、高度・先進医療の提供、及び医療人の育成に努めています。2014年には地域医療の将来を見据え、国立大学病院として初となる2回目の再開発整備事業をスタートしました。

### 2度目の再開発整備事業が終了

2025年9月、足かけ11年にわたる事業が完了しました。長らくご協力いただいた皆様へ感謝の思いを伝えるため、11月8日(土)に「山大病院感謝祭」を開催。約1,600名が来場され、改めて地域の皆様に支えられていることを実感する機会となりました。



手術支援ロボットの操作体験



感謝祭のフィナーレを飾る餅まき

### 県内初の3つの取り組み

2025年度は次の3つについて、本院が山口県内で初めて取組を開始しました。

- ・CAR-T細胞療法の導入：再発難治性の悪性リンパ腫や多発性骨髄腫等に対する、新しい免疫療法を開始しました。
- ・植込型補助人工心臓(VAD)への対応：管理施設の認定を取得し、2月より診療を開始しました。
- ・ドナーミルクの利用開始：4月より、早産児や極低出生体重児を対象に「母乳バンク」の提供が可能になりました。



植込型補助人工心臓(VAD)管理チーム

### 地域医療への貢献

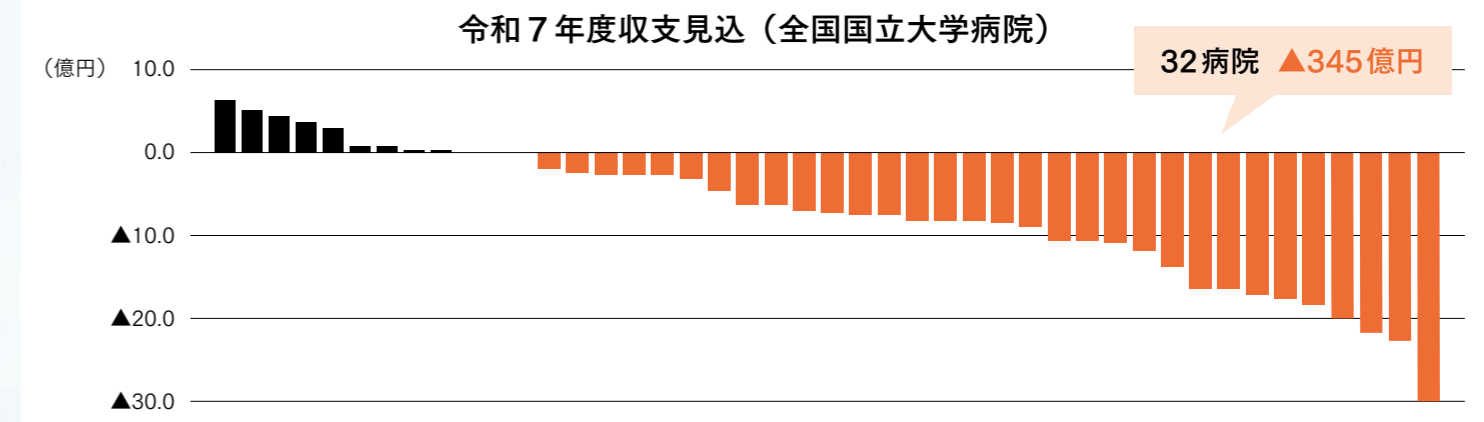
本院の治療等について、市民の皆様にわかりやすく紹介する公開講座「知っちゃる？ 山大病院」を2025年度より開催しました。年5回の開催で、約500名が参加されました。



毎回多くの方が熱心に聴講されます

### かつてない危機的財政状況

本院では、山口県の地域医療における最後の砦として、高度・先進医療の提供に努めています。一方で、医療の高度化に伴う高額医薬品等の使用による医療費の増加や、物価・エネルギー価格の高騰等の影響により、厳しい財政状況下での経営を余儀なくされています。



【出典】令和7年度国立大学病院収支見込等調査(第3回)

### 学部間連携によるコスト削減

厳しい状況下ですが、コスト削減による経営改善に向け、自助努力による新たな試みも始めています。その一つが、栄養治療部と本学農学部のコラボレーションです。農学部の実習の一環で生産した野菜の一部を、本院の病院食に活用する取り組みを始めました。患者さんからは「おいしかった」「良い取り組みだと思う」などの感想をいただきました。

### 持続可能な医療を目指して

本院では持続可能な地域医療の実現のため、安心・安全な高度・先進医療の提供に努めてまいります。本院が未来に向けて発展していくために、皆様の温かいご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



農学部学生が生産した野菜を病院食に活用